

競技注意事項

Instructions for the Competition

1. 規則について

本大会は 2019 年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項・リレー申し合わせ事項・競技注意事項により実施する。

2. 練習について

- (1)ウォーミングアップ及び練習は、補助競技場を使用すること。
- (2)本競技場フィールドでの投てき練習は、投てき審判の指示に従い、競技開始前に行うこと。
- (3)補助競技場の使用については、役員の指示に従い安全に留意すること。
- (4)前日練習について
 - ①前日練習は個人利用とする。怪我に関しては自己責任とし、主催者側は一切責任を負わない。
 - ②本競技場内における競技前の練習は、競技開始 30 分前までとし、すべて競技役員の指示に従って行うこと。ただし、1 日目に行われる開会式は競技開始の 30 分前に行われるため、開会式時間帯は本競技場内の練習を禁止する。
- (5)補助競技場について
 - ①補助競技場の練習については、左回りとし、トラック内の逆走は禁止する。
 - ②ハードル使用については安全の都合上使用を禁止する。また、ハードル練習は本競技場で行うこと。
 - ③スターティングブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に留意すること。
- (6)投てきの練習について
 - ①練習については競技役員の指示に従うこと。
 - ②公式練習は本競技場内で審判の指示により行う。
 - ③補助競技場でのハンマー・砲丸・やり・円盤の使用を禁止する。

3. 競技場使用上の注意

- (1)更衣は、正面玄関を入れて左にある更衣室を使用すること。更衣室での場所取りは禁止する。また、荷物は各大学責任を持って管理すること。
- (2)メインスタンドでの部旗・横断幕掲出、全体応援は一般観衆の妨げとなるため禁止する。バックスタンドに部旗・横断幕を掲出することは認めるが、その場合は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。ただし、バックストレート中央付近は部旗・横断幕の掲出を禁止する。

- (3)大会前日、また当日中の開門前の場所取りは厳禁とする。閉門時にはシートを含め、荷物はすべて持ち帰ること。テープもすべてはがすこと。開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、嚴重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。なお、開門の際、中央入口ではなくメインスタンド横入口を利用すること。
- (4)シート固定等で競技場内においてテープを使用する場合は、養生テープに限定し、その他のテープ類(ガムテープ等)の使用は固く禁止する。
- (5)車及びバスで来場する際は、第一駐車場及び第二駐車場に駐車すること。
- (6)競技場は全天候舗装型であるため、使用するピンの長さは 9mm 以下、走高跳・やり投については 12mm 以下とする。
- (7)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (8)競技場内において競技者は助力とみなされるビデオ、カセットリコーダー、ラジオ、CD・MD プレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォンもしくはそれに類似するものの使用・所持を禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則第 144 条を適用する。
- (9)医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に関しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。
- (10)メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の侵入を禁止する。
- (11)スパイクで競技場内通路を通行することを禁止する。
- (12)貴重品の管理は各大学及び各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合は、インフォメーションセンターにて一時保管をする。
- (13)ゴミ袋を学校受付の際に配付するので、清掃を徹底し、ゴミは各大学が責任を持って持ち帰ること。
- (14)競技場内でのすべての電源の使用を禁止する。
- (15)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。また、下記の記載の開閉門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。

期日	開門時間	閉門時間
9月20日(金)	8:00	17:30
9月21日(土)	7:30	17:00
9月22日(日)	7:30	16:30

4. 招集について

(1)招集の方法について

- ① 招集所は、第 4 コーナ外の倉庫に設置する。
- ② 競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でスパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。
- ③ スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。

(2)代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間及び競技時間が重複する場合は、招集所に重複出場届を提出すること。

(3)混成種目の招集は 2 日間とも最初の 1 種目のみ招集所で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は中央入口を入り左側にある。

(4)リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(インフォメーションセンターに用意)をインフォメーションセンターと招集所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の 1 時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医務員の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。

(5)招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。

(6)商標について 2019 年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2015 年度よりユニフォームに関する規定が変更になったので注意すること。

(7)招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	フィールド種目
招集開始時刻	競技開始 30 分前	競技開始 90 分前	競技開始 60 分前
招集完了時刻	競技開始 20 分前	競技開始 80 分前	競技開始 50 分前

5. 不出場について

競技参加者の不出場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず不出場となる場合は以下の要領で申し出ること。

(1)大会 3 日前(9 月 17 日)までに不出場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、9 月 17 日(火)18 時必着までに本連盟事務所に提出すること。(FAX 可)

(2)上記期日以降にやむを得ず不出場となる場合には、不出場届(インフォメーションセンターに用意)に必要事項を記入の上、招集所及びインフォメーションセンターに提出し、承認を得ること。その際、棄権料として個人競技(混成競技を含む)500 円、リレー競技 700 円を徴収する。なお、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。

(3)不出場に際し、申し出のない場合は、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。また、後日棄権料として要項の 10.に記載してある九州学生陸上競技連盟の

ロ座に振り込むこと。

6. ナンバーカードについて

- (1)ナンバーカードは 2019 年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2)ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸・背のいずれかにつけばよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。
- (3)トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。ただし、男女 5000m、男女 10000mについては両腰につけること。腰ナンバーカードはフィニッシュ後、ただちに係員に返却すること。
※第 143 条 7・8・9 項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まり次第掲示板に掲載する。
- (2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際、同記録が複数出た場合、写真判定により 1000 分の 1 秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500mの場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則第 167 条を参照のこと。
- (3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1)不正スタートに関しては、競技規則「第 162 条 7」の適用により失格とする。
- (2)スタートの合図は“On Your Marks” “Set”で行う。
- (3)短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4)リレー種目について
 - ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ・ランニングパンツの区別は設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から**最低2名は出場しなければならない。**それ以外の 2 名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は 2 名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※第 170 条 10 項参照のこと。
 - ④4×100m リレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※第 170 条 4 項参照のこと。
- (5)男子 5000m、男子 3000mSC についてはタイムレース決勝とする。

(6)男女 5000m、男女 10000mについては、給水を設置する。

(7)男女 5000m、男女 10000mについては下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。

男子		女子	
5000m	17分00秒	5000m	20分00秒
10000m	35分00秒	10000m	41分00秒

(8)男女 5000m、男子 10000mについては当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンの振り分けを行う。役員の手指示に従うこと。

(9)男女 3000mSCについてはランニングシューズでの出場は認めない。

(10)4×400mRの際は200mスタート地点での集団応援を禁止する。

9. フィールド種目について

(1)跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別	練習	バーの上げ方	
走高跳	男子	1m70、2m00	1m75-1m80-(5 cm 刻み)-2m10-(3 cm 刻み)
	女子	1m40、1m65	1m45-(5 cm 刻み)-1m70-(3 cm 刻み)
	十種		1m45-(10 cm 刻み)-1m75-(5 cm 刻み)-1m90-(3 cm 刻み)
	七種		1m20-(5 cm 刻み)
棒高跳	男子	3m70、4m50	3m50-(20 cm 刻み)-4m50-(10 cm 刻み)
	女子	2m70、3m10	2m40-(20 cm 刻み)-2m80-(10 cm 刻み)
	十種		2m00-(20 cm 刻み)-3m80-(10 cm 刻み)

※同成績の場合は競技規則第 181 条 8 項を適用する。

(1)走幅跳は、男女とも 2ピットで競技を行う。

(2)男子三段跳は 2ピット (11m、12m)、女子三段跳は 1ピット (10m、11m)で行う。

(3)ジュニア規格の種目については各種目、一般規格と同時進行で競技を進め一般・ジュニアともにそれぞれトップ 8 を選出して決勝ラウンドを行う。

(4)2019 年 4 月 1 日より跳躍に関する規定が変わったので十分注意すること。日本陸連「第 180 条総則 フィールド競技 試技時間」(陸上競技ルールブック 2019 254 ページ)

～(前略)～つぎの試技時間は、通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたら第180条18を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※残っている競技者に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

10. 混成競技について

- (1)招集は、各日最初の種目に限り招集所にて行う。それ以降の招集は現地にて行うので、次の競技までは混成競技者控室にて待機し、競技役員の指示に従って行動すること。
- (2)混成競技者控室として本競技場中央入口から入り左側にある混成控室を使用すること。該当種目の競技者及び競技役員以外の混成競技者控室への立ち入りは一切禁止とする。

11. 表彰について

- (1)各種目3位までに入賞した選手競技終了30分以内に表彰を行うので、本部前まで集合し、表彰係の指示に従うこと。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。
- (2)表彰時の服装は、上は各大学ユニフォーム、下は各大学のジャージまたはウィンドブレーカーとする。
- (3)閉会式において、成績の優れた男女1名ずつを最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞としてトロフィーを授与する。

12. 用器具について

用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポール、やりについては個人のものを使用を認める。その場合、その他の競技者にも使用させなければならない。今回は、

競技場備え付けのものが不足しているため個人のもを持参することが望ましい。また、ポールは競技場備え付けの物がないため、個人のもを持参すること。やり、円盤、ハンマーについては競技当日の招集開始時刻から招集完了時刻までに 100m ゴール付近の用器具倉庫にて検査を行う。ただし、使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者が責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。

13. 抗議について

- (1) 抗議は競技規則第 146 条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから 30 分以内に次のラウンドが行われる種目では、その結果が発表されてから 15 分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。
- (2) 審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(¥10,000)を添えて、正式な手続きをとること。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

14. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出場所・依頼先
不出場届	インフォメーションセンター	招集所・インフォメーションセンター
重複出場届	招集所	招集所
リレーオーダー用紙	インフォメーションセンター	招集所・インフォメーションセンター
記録証明書	インフォメーションセンター	インフォメーションセンター
上訴申立書	学連本部	学連本部(要預託金)

15. 商標について

2019 年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2015 年度よりユニフォームに関する規定が変更になったので注意すること。

16. その他

- (1) 記録証明書を希望する競技者は、300 円を添えてインフォメーションセンターまで申し込むこと。
- (2) 競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。
- (3) 競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラムp31 に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。

- (4) 主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。
なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (5) ポールおよびやり返送について
返送を希望する場合は、インフォメーションセンターにて最終日閉会式開始までに輸送の手続きを行うこと。
- (6) 天候や出場人数などの影響でタイムレース決勝となった場合、本来の決勝時刻で競技を開始する。また、変更する場合もある。
- (7) 加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。

※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合、必ず従わなければならない。